霧島市立医師会医療センター
薬剤部 DI ニュース
No. 283
2021年10月

＜甘草を含む漢方薬の副作用について＞

＜漢方薬とは？＞

漢方薬は、植物、動物、鉱物の中で薬効を持つ「生薬」と呼ばれるものを2種類以上組み合わせ作られた薬です。
病院で処方される漢方薬の多くは、健康保険が適用される「医療用漢方製剤」で、148処方が厚生労働省に承認されています。

＜漢方薬に副作用はあるの？＞

漢方薬にも副作用はあります。医療用漢方製剤は148処方ありますが、前述のとおり、漢方薬には2種類以上の生薬が含まれ、その種類数やそれぞれの量は様々です。
さらに、漢方薬を数種類、組み合わせて服用することもあるため、
それぞれの漢方薬に含まれる生薬の重複にも注意が必要です。

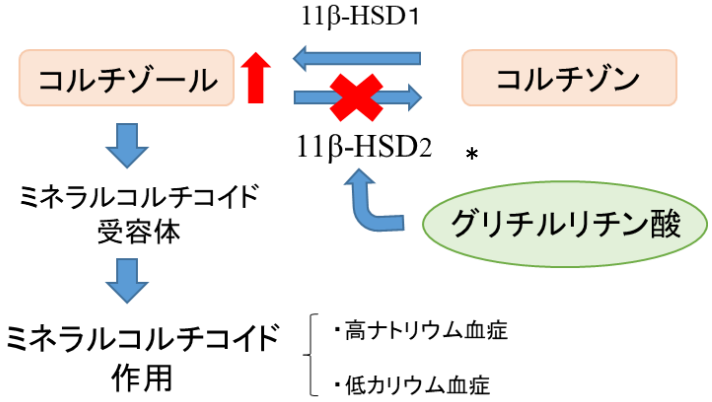
一般に「漢方薬は作用が穏やかで、副作用が少ない」といった誤った認識が副作用を見逃す要因の1つとなっています。

＜甘草を含有する漢方薬ではどんな副作用が起こるのか・・・＞

甘草とは、グリチルリチン酸を含み、抗炎症作用のほか、
気道粘膜からの分泌を促す作用を期待することが出来ます。
ただし、このグリチルリチン酸を過剰摂取することで
「偽アルドステロン症」を引き起こす恐れがあります。

★「偽アルドステロン症」とは、
血中のアルドステロンが増えていないのに、「アルドステロン症」の症状を示す病態

＜発生機序＞



コルチゾ ールはアルドステロンと同程度の親和性でミネラルコルチコイド受容体にも結合するが、正常でアルドステロンよりも圧倒的に高濃度で存在するコルチゾールをミネラルコルチコイド受容体に結合しないコルチゾンに変換することで、ミネラルコルチコイド受容体 がコルチゾールにより占拠されるのを防いでいるが、甘草に含まれるグリチルリチン酸が、コルチゾールをコルチゾンに変換する11β-HSD2*の酵素活性を抑制させることで、過剰になったコルチゾールが、ミネラルコルチコイド受容体を介して腎臓からのNa再吸収促進、K排泄促進をするミネラルコルチコイド作用を発揮することで生じる 。

＊11β-HSD2：11β-hydroxysteroid dehydrogenase 2

＜偽アルドステロン症の初期症状と対処方法＞

・初期症状・・・1～数か月で出現

●血圧上昇　●顔や手足のむくみ　●脱力感　●手足のしびれ、こわばり　●筋肉痛

⇓ このような症状が現れた場合 ⇓

・対処方法

甘草含有物の摂取を中止することで、
数週間の経過で臨床症状の消失と血清カリウムの上昇をみることが多いとされています

＜甘草が含まれる 当院採用漢方薬 と注意点＞

甘草を含む漢方薬	甘草の1日量（g）
芍薬甘草湯	6.0
桂枝人参湯	3.0
小青竜湯	3.0
人参湯	3.0
半夏瀉心湯	2.5
葛根湯	2.0
桂枝加朮附湯	2.0
柴苓湯	2.0
大黄甘草湯	2.0
麦門冬湯	2.0
苓桂朮甘湯	2.0
加味逍遥散	1.5
十全大補湯	1.5
防已黄耆湯	1.5
補中益気湯	1.5
麻黄湯	1.5
抑肝散	1.5
釣藤散	1.0
人参養栄湯	1.0
六君子湯	1.0

「昭和53年2月13日」・薬発第一五八号・各都道府県知事あて厚生省薬務局長通知をもとに1日上限量は甘草5g（グリチルリチン酸200mg）を目安とされていましたが、平成28年4月1日をもって廃止されました。しかし、甘草を1日投与量とて1～2gしか含まない医療用漢方薬でも偽アルドステロン症の発症例も報告されています。

甘草は様々な漢方に配合されており、
漢方薬を併用することで、1日の摂取量が増え、偽アルドステロン症発症の可能性が高まるため注意が必要です。

例）
こむら返り　→　芍薬甘草湯
鼻炎　→　小青竜湯
それぞれの治療目的で漢方薬を服用した場合、甘草の1日摂取量は9.0gとなり、過剰摂取のおそれがあります。

又、甘草を1日量として2.5g以上含有する漢方薬は次の患者には疾患及び症状悪化のおそれがあるため、禁忌となっています。
1）アルドステロン症の患者
2）ミオパチーのある患者
3）低カリウム血症のある患者

参考文献：
厚生労働省 重篤副作用疾患別対応マニュアル 偽アルドステロン症
ツムラ医療用漢方製剤添付文書
漢方薬がわかる本

薬剤部実習生　森 夏紀　　指導薬剤師　岸本 真、北園 幸大